

トートリルア剤 ハマキコンー N	取扱メーカー： 協友アグリ＊，サンケイ＊， 信越化学 原体メーカー： 信越化学
成分： (Z)-11-テトラデセニル＝アセタート……………69.4% (Z)-9-テトラデセニル＝アセタート……………13.7% 10-メチル-ドデシル＝アセタート……………1.8% (Z)-9-ドデセニル＝アセタート……………3.7% 11-ドデセニル＝アセタート……………1.8% (Z)-11-テトラデセン-1-オール……………0.9%	性状： 淡黄色澄明油状液体（ポリエチレンチューブ入り） 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級Ⅲ

【品目特性】 ……………

- 昆虫の性フェロモンを利用した薬剤。
- 直接の殺虫作用はなく，殺虫剤に抵抗性を獲得した害虫にも有効である。
- チャハマキ，チャノコカクモンハマキ，リンゴコカクモンハマキ，ミダレカクモンハマキ及びリンゴモンハマキの各成虫の交尾を連続的に阻害し，交尾率を低下させることによる次世代の密度低下を目的とする。
- 天然組成に近いフェロモン成分を配合したので，安定した交信攪乱効果が発揮される。
- 天敵に対する影響が非常に少ない。
- 殺虫剤との体系防除で防除回数を低減できる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】 ……………

- 成虫発生初期から比較的広範囲の地域で使用する事が望ましい。
- 対象害虫が高密度に存在する場合には，状況に応じて天敵に影響の少ない殺虫剤を併用することが望ましい。
- 越冬世代成虫発生初期に設置する。
- 使用量は10 a 当り，茶150～250本もしくは30～50m，果樹類100～150本である。

- 立地条件や風向，傾斜等により効果がフれる場合があるので，諸条件から判断して，設置本数の概ね8割を均等に設置し，残り2割程度を周辺に設置すると効果的である。

- 果樹には果樹用を，茶には茶用の製品を使用する。

- 茶樹に使用する場合は，摘採面下10cm位の位置に，2.2～2.4m間隔で設置する。

【薬効・薬害等の注意】 ……………

- 急傾斜地，風の強い地域など，本剤の濃度を維持するのが困難な地域では使用しない。

- 設置の際，面積に応じてポリエチレンチューブを切断する場合は，必ず20cm間隔でヒートシールされている部分を切断する。

- 外袋のアルミ箔袋を開封したまま放置すると，有効成分が揮散するので，密封したまま冷暗所（5℃以下）に保存し，必ず使用直前に開封して使いきる。

- 共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】 ……………

- 皮膚に対して刺激性があるので，皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には，直ちに石けんでよく洗い落とす。

【適用と使用法】

作物名	使用目的	適用害虫名	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法
果樹類	交尾阻害	リンゴコカクモンハマキ ミダレカクモンハマキ リンゴモンハマキ チャハマキ チャノコカクモンハマキ	成虫発生 初期～終期	100 ～ 150 本 (54 g/150本製剤)	本剤を枝にかける。
茶		チャハマキ チャノコカクモンハマキ		150 ～ 250 本 (90 g/250本製剤) 30 ～ 50m (54 g/30m 製剤)	本剤を枝にかける。又は ロープ状製剤の場合、支 柱等を立て、対象作物の 上部に張り渡す。